

事疑ハ何

禁物

馬

一檀門 一納棺 一發者 一運上 一持喪 一無蓋

一私欲 一押候 一信帖 一控書 一信長

右ノ通忌也一但形舞ハ能福用也

喰テ能取

一文道 一武藝 一忠孝 一精志 一儉素

一軍學 一良辰

右ノ外毒成リテハ其ハ合食ニ

本家調合所

取込所

京都八丁堀

白川屋仁三郎

名古屋芝屋

同日

常陸屋水右衛門

○大坂出守奉行武友市之進方其誠心奉侍有之也

毎月九日通致事他侍之由之里奉教

男

朔日 右九二日 右九三日 右九四日 右九五 右九六日 右九七日 右九八日

女

朔日 右九二日 右九三日 右九四日 右九五 右九六日 右九七日 右九八日

右ノ通毎月朔日ハ八日迄矣之里ハ居諸病ニ非也之由ニ病

長壽ノ事右ノ侍之由年ニ百ハ歳ニ成リ侍之由稀也

河内國石川郡古市村
百姓仁右衛門改名

了清
百八歳

右ノ者耳眼齒之代ニ百二十歳位ノ事之由

右了清先祖が代に於て中野を大坂迄八里行り長月一須
日御の事行仕了清三男大坂堺筋石川屋利左衛門
春米屋致一石屋の當年七拾九歳にお成り者もけ急治
信家り未中男増り米春中一石お尋り石川屋利左衛門
不強右急治致一石屋又長壽言此屋の由中野の右利右
急米春中一石屋了清一石屋の右急治致一石屋

○六月十九日

一通り尋り上
同日一人一紙ケ返す

同日
揚屋致一紙ケ返す

奇合

福徳助市

米性祖中坊通の事

全田宗三津

同日
同日一人一紙ケ返す

同人傳

全田栄吉郎

同人書 中野

此書宛書全田行徳書

水原若次郎

同人書

中野

小笠原祖前田房の事宛

谷 全吾

曲割申事又右祖の力
勝十郎傳

松田貞橋

勝十郎書
とみ

奇合
増田隆三忠家書

関口友藏

同日
揚屋致一紙ケ返す

同日
紙ケ返す

同日
揚屋致一紙ケ返す

同日

同日
紙ケ返す

同日
揚屋へ参る

同日
お返す

尋上りお尋し付
町役人へお尋す

禁裏附
水糸御侍と申す御取

吉田孝右衛門
水糸屋御中書

本村左衛門

新吉原系町寺丁目録持控女
高附如右尾上町新吉原平八
住宅

忠孝門

右に評定所出田肥後守山村信濃守友信新三郎之合肥
信濃守信康守中後

山内村河津勘助中書

廣成仲助
廿三

右に者並に味知丸出目付中後守中仕切内之長重は狭箱
之取付に成て盗取と存去年八月九日以來主人勘右衛門借
狭箱借し者御しは是合右中後守成
長重は御出目付中後守之長重は明々衣類上下小都合
七交盗取御入又之責拂代金七交強奪之旨八拾文之強酒食
雜用おとせ山内出目付御取付し中仕切御取付し御取付し
右河丹治は重キ中掛波の御取付し中仕切御取付し御取付し
於水門御門中付し御取付し御取付し御取付し御取付し

六月廿三日

○申七月八日

古きもの抄本 男の形紙 石
千五百餘字あり
在り
吾の儀にやあ合

全書 鞠負
如多志庫

本草好色

傾城

按スルニ上藩ノ像女房ノ愚痴ナキ者也一名遊女其性冷氣味酸

時珍曰屋暮又ハ不粹ノ垢ヲ救人ヲシテ
浮氣ニス製法スツハノ皮ヲ去リ床ニテ
振ヲ除能見立テ裏ヲカエス三度目ニ床
花ヲ打テ酒ニ浸シ用ユレハ少々口説ヲ
發ス多ク用ユレハ腎ヲ破リ身ノ上ヲ損

ス老人貧窮ノ人ニ忌ム

野郎

按スルニ流ノ若衆ナリ一名陰間其性温氣味苦毒アリ

時珍曰能座ヲ持テ酒ヲ進ム多用ユレハ
印籠ノ緒シメテ損ス人ヲシテ種ヲ失フ
久シク用ユレハ痲病ヲ生ス

妓婦

按スルニ貧家ニ生養女也形チ娘ノ如シ一名踊子其平氣味淡シ

時珍曰小毒アリ能ク樓船ヲ賑シ娼聲ヲ
發ス地色ニシカケ目ハシヲキカシテ用
ユ功能大概傾城ニ同シ多ク用ユレハ向
ス子ヨリ火ヲ出ス